

めまいを診る! 眼振マスター ベーシック ステップ 1・2・3



將積日出夫 (富山大学医学部耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座教授)

本コンテンツはハイブリッド版です。PDFだけでなくスマホ等でも読みやすいHTML版も併せてご利用いただけます。

▶ HTML版のご利用に当たっては、PDFデータダウンロード後に弊社よりメールにてお知らせするシリアルナンバーが必要です。

▶ シリアルナンバー付きのメールはご購入から3営業日以内にお送り致します。

▶ 弊社サイトでの無料会員登録後、シリアルナンバーを入力することでHTML版をご利用いただけます。登録手続きの詳細は <https://www.jmedj.co.jp/page/resistration01/> をご参照ください。

▶ 登録手続

- 1 眼振とは p2
- 2 ステップ1 (眼振に慣れる) p2
- 3 ステップ2 (眼振を視る) p7
- 4 ステップ3 (眼振を診る) p9
- 5 眼は口以上に物を言う p15

注: 本コンテンツにおける眼振の動画は、健康人(著者自身)の眼で各種疾患でみられる眼振を再現したものです。

▶ HTML版を読む

日本医事新報社では、Webオリジナルコンテンツを制作・販売しています。

▶ Webコンテンツ一覧

1 眼振とは

眼振 (nystagmus) はギリシャ語の“nustagmos”に由来し、うたた寝の状態で「舟をこぐ」という意味がある¹⁾。頭がゆっくり下がる状態と頭が元に戻る状態に例えられ、Coganは眼振を「不随意で律動的な眼球の往復運動」と定義している²⁾。『広辞苑』によれば、「律動」とは「周期的に繰り返される運動」である。また、「律動的」とは「動きにリズムのあるさま、リズムカル」という意味である。そのため、眼振とは「一方向に眼がゆっくりと動き、そして反対方向に素早く眼が動いて戻る動きの組み合わせがリズムカルに反復するもの」と解釈することができる。これは「**衝動性眼振**」と呼ばれ、ゆっくりとした動きと速い動きはそれぞれ「**緩徐相**」と「**急速相**」と名づけられている。このほか、往きと帰りの運動が等しい眼振もあり、これは「**振子様眼振**」と呼ばれる。

「眼は心の窓」あるいは「眼は口ほどに物を言う」とも言われ、昔、名医は眼を見て病気を診断したと伝えられているが、検査機器の発達した今日においても、眼振を含む眼の動きの観察は、めまい・平衡障害の病巣診断や治療効果判定に非常に大切である³⁾。

本稿では、「めまいを診る！ 眼振マスターベーシック ステップ1・2・3」と題して眼振の機序、観察方法、前庭神経炎、中枢性めまい、良性発作性頭位めまい症 (benign paroxysmal positional vertigo : BPPV) の眼振所見について解説を行う。

2 ステップ1 (眼振に慣れる)

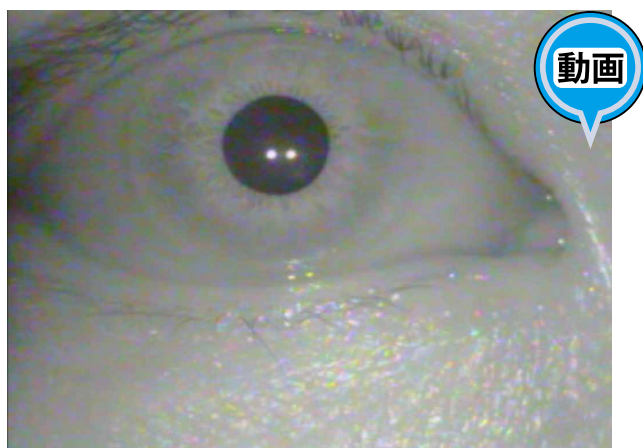
(1) 眼振の分類

眼振には、眼、内耳、脳幹、小脳の機能が関係している。これらの部位に異常があって起こる眼振は「**病的眼振**」と呼ばれ、眼振自体が神経学的徴候と見なされる。一方、健常人でも耳に温水や冷水が入ったり、列車の

窓から外の風景を見ているときに眼振がみられる。これは「**生理的眼振**」と呼ばれ、誘発されないときには病的意義があると判断される。

眼振に慣れるための第一歩は、眼振の方向を診断することである。眼振における眼球の動きには急速相と緩徐相があり、**眼振の方向は、慣習的に急速相の方向とイコール**と定義されている⁴⁾。急速相の方向や動きによって、水平性/垂直性/回旋性眼振と呼ばれている。

たとえば水平方向の眼振で、ゆっくりと左方向に動き、素早く右方向に戻る場合には、前者が「**緩徐相**」、後者が「**急速相**」と呼ばれ、この場合の水平性眼振は「**右向き眼振**」と呼ばれる (**動画 1**)。



動画 1 右向き水平性眼振

ゆっくりと左方向に動き、素早く右方向に戻る右向き水平性眼振

同様に、急速相の方向をもとに、垂直性眼振では急速相が上方向の場合は「**上眼瞼向き眼振**」、下方向の場合は「**下眼瞼向き眼振**」と定義されている。

回旋性眼振では、(検者から見て)「**時計回り (clockwise) 回旋性眼振**」もしくは「**左向き回旋性眼振**」、(検者から見て)「**反時計回り (counter-clockwise) 回旋性眼振**」もしくは「**右向き回旋性眼振**」として分類する (**図 1**)⁵⁾。

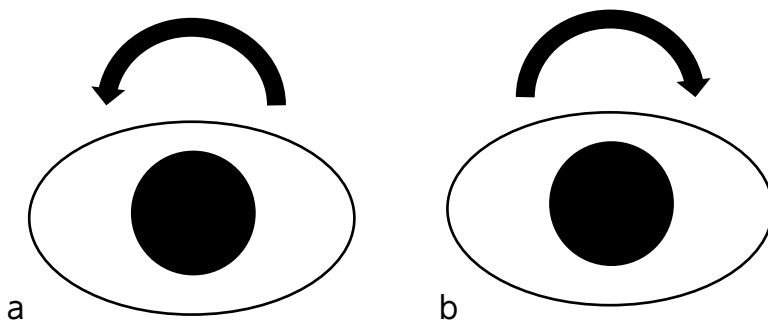


図1 回旋性感振の方向の記載方法

被検者の眼球上極における眼振急速相の方向により決定する

a:「反時計回り回旋性感振」または「右向き回旋性感振」

b:「時計回り回旋性感振」または「左向き回旋性感振」

(2) 純垂直性感振，純回旋性感振を観察する方法

眼振は，日常臨床で診察するすべてのめまい患者で見られるわけではない。水平性感振は前庭神経炎，メニエール病の発作期などでみられることが多いが，垂直方向や回旋方向の眼振を見ることは比較的少ない。垂直方向や回旋方向のみの眼振（「純垂直性感振」および「純回旋性感振」と呼ばれる）は，脳幹や小脳病変を疑い，MRIなどの画像検査を施行する必要があるため，見逃すことはできない⁶⁾。

そこでこれらの眼振を見慣れておくために，高価な医療機器を使わずとも手軽に見ることができる方法を1つ紹介する。

まず傘を1本用意する。傘を広げ，左手で中棒を保持しながら手元で傘を回転させる。被検者（健常人）に眼の前を通る露先を1つひとつ数えるように指示すると，眼振を誘発することができる。露先の移動方向が左右方向であれば水平方向の眼振，上下方向であれば垂直方向の眼振が観察される。この眼振は「視運動性感振」と言われる。この方法で観察された垂直方向の視運動性感振を動画ファイルにした（動画2）。

次に，観察する機会の少ない回旋方向の眼振を誘発させるには，椅子に座り，真上を向いて椅子を回転させるとよい。この眼振は「回転性感振」と言われる。この方法で記録された回旋方向の眼振を動画ファイルにした（動画3）。